

NEWS LETTER

横浜災害ボランティアネットワーク会議



編集・発行：横浜災害ボランティアネットワーク会議

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1 横浜市健康福祉総合センター8階

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会内

TEL 045-201-8620 FAX 045-201-1620

E-mail: saivol@yokohama-saigai-vol-net.jp

2012年3月発行 No.46



釜石からのメッセージ

2月22日(水) 瀬谷区公会堂 (主催：瀬谷区社会福祉協議会他) 及び2月23日(木) 横浜市健康福祉総合センター (主催：横浜市社会福祉協議会) にて、岩手県釜石市から4名の方をお招きした講演会及び研修会を開催しました。その内容の一部をご紹介します。

横浜市健康福祉総合センターの研修会時の写真です

*お話しの内容を抜粋して掲載しています



せとはじめ
瀬戸 元
釜石市両石町内会
会長

- 海が沖の方へ動いた。初めて見る光景で、すぐに大津波がくると感じた。
- 一度避難はしたが、荷物を取りに行くなど、自宅へ戻る時に被害にあった方も多かった。
- 避難のタイミングが遅かった。先人の教えを知っていた50歳以上の犠牲者も多かった。
- 津波が来たら、各自でんでんばらばらに一人で高台へと逃げる・自分の命は自分で守る。共倒れを防ぐ手段として、“命でんでんこ(津波でんでんこ)”の教えがとても大切である。
- 同じ町内会の方が同じ仮設住宅に入る事を提案したが、買物や病院に便利な場所を希望される方もいて、同じ町内の住民が別々の仮設住宅になってしまい、コミュニティが出来にくかった。
- 天災は忘れたころにやってくる！家庭や地域で継続して避難訓練などに取り組むことが大切である。



たかはし としのり
高橋 利徳
釜石市民生委員児童
委員協議会会長

- 多くの民生委員児童委員の自宅も半壊や全壊などの被害にあった。
- 津波の被害がない地区の民生委員児童委員も、要援護者への声かけを自主的に行っていた。
- 仮設住宅には支援が届きやすいが、民間のアパート(みなし仮設)には、支援が行き届きにくい。
- みなし仮設に、民生委員児童委員が個別に世帯調査を行い、動向を調査した。その後、調査結果をもとに、社会福祉協議会と一緒に物資を配布する取り組みをおこなった。
- 家庭の介護力の低下が現在の課題である。面倒を見てくれる人や手をかけてくれる人が亡くなり、認知症が進んでしまっている方もいる。



やうら かずえ
矢浦 一衛

釜石市社会福祉協議会
常務理事兼事務局長

- 災害ボランティアセンターが立ち上がって、中学生や高校生など多くの地元の方がボランティアとして協力してくれた。
- 12月1日に災害ボランティアセンターを「釜石市社協生活ご安心センター」に名称変更した。
- 仕事を無くした方・家族を亡くした方などになんとか寄り添う活動が出来ないかと考え、地域住民が集うお茶っ子サロンなどの取り組みを行っている。
- 防災マニュアルの見直しが必要である。震災は夜におきる場合もあるし、ライフラインを含めて考える必要がある。
- 仮設住宅の入居方法の課題があった。新しく出来た仮設住宅に、高齢者や子ども世帯などに優先して入ってもらったことで、担い手となる方が少ない状況が出来てしまった。



ふじわら しんや
藤原 伸哉

豊心会大松学園 相談支援事業所
トーク釜石・大槌地域相談支援専門員・移行推進員

- 震災当日は、パトカーの音も何もしない静かな夜で、星空がとても綺麗だったことが印象に残っている。
- 障害のある方々の課題としては、震災でこれまで支えてくれた方や分かってくれている人がいなくなり、新たに作られたコミュニティに入る難しさがあった。
- 3月11日前の生活になんとか戻せるようにする。その手伝いを行うのが役目だと感じている。
- 行政職員も被災者である。手いっぱいな状況であれば、地域住民等の協力者に手をかしてもらい、先への役割を担うことに行政には尽力して欲しい。
- 障害のある方が他と同じ作りの仮設住宅で暮らすことでの課題がある。介助する際に邪魔になってしまうものがあったり、隣近所の音を気にしてしまう問題があった。そうした課題に対して行政に要望を出して改善してもらった。

釜石市社会福祉協議会の矢浦事務局長をはじめ4名の方から、東日本大震災に関して、多くの方々から義援金・義援物資の提供、ボランティア活動等のご協力を頂き、とても感謝をしているとお話しくださいました。

釜石からのメッセージ

防災はまちづくりの一環である！
千年の未来にかけて復興します！

釜石市社協 生活ご安心センター



ホームページより【<http://blog.canpan.info/kamishima-vc/>】

1/16（月）九都県市合同防災訓練・図上訓練に 横浜災害ボランティアネットワーク会議が参加

平成23年度「防災とボランティア週間」として、第6回九都県市合同防災訓練・図上訓練に参加しました。

「ロールプレイング方式の状況付与型図上訓練」ということで、消防局をはじめとする多くの関係機関が参加、発災から18時間後とした想定にもとづき、様々な状況が参加機関に情報提供され、その情報をもとに関係機関と調整を行う訓練内容でした。

横浜災害ボランティアネットワーク会議として、横浜市災害ボランティアセンター（以下「市災ボラセンター」）を横浜市からの要請にもとづいて立ち上げるまでの訓練が必要と考え、今回の訓練ではまず市災ボラセンターを立ち上げるまでのシミュレーション訓練を行いました。その後、立ち上げを行った市災ボラセンターの運営訓練として、情報を与えるコントローラーから付与された状況をもとに関係機関と調整を行いました。

参加して見たこととして、①市災ボラセンターをどのような手順をふまえて立ち上げを行うのか、細かな部分の対応を決める必要があること。②市外のボランティア募集の判断をどうするのか、宿泊場所の確保や交通機関の状況をふまえた判断が求められること。そうした様々な事を把握することができた訓練でした。

訓練の流れ



発災の状況が仮想のニュースとして流れます



状況付与された情報をもとに、調整を行います



全体での振り返りを行い、各機関の状況を共有します

2/28（火）区災害ボランティアネットワーク連絡会を開催

今回の連絡会では、東日本大震災をもとにテーマ①【各区災害ボランティアネットワークが今回の東日本大震災でどのような活動を行ってきたのか】、テーマ②【東日本大震災をきっかけに、これまで取り組んできた内容の見直しを行ったり、新たに取り組んだこと】という2つのテーマで話し合いを行いました。

東日本大震災から私たちは多くのことを学びました。そうしたことを、いかにこの横浜の地で活かしていけるのかについて重点的に話し合いを行いました。各区の区役所等で策定しているマニュアルの見直しや毎年実施しているシミュレーションの内容を変更するなど、すでに多くの区が取り組んでいる現状を確認し、これからの取り組みを考える大きなきっかけとなりました。



当日の様子

3月11日（日）に募金活動を実施し、730人以上が参加！

東日本大震災からちょうど1年の3月11日（日）に、東日本大震災支援事業として桜木町駅・関内駅・金沢文庫駅で募金活動を実施しました。

当日は、日曜日ということもあり、3会場合計で90万8517円の募金が集まりました。

70団体・730人以上の方がボランティアとしてご参加くださり、桜木町会場だけでも350人の方に活動して頂きました。

当日ご協力くださった皆様をはじめ、多くの関係者の方々に感謝いたします。

この募金活動は、【おおふなと「がんばっぺし」心プロジェクト】（詳細は下記に記載）の連動企画として実施をしました。当日集まった募金については、全額【おおふなと「がんばっぺし」心プロジェクト】に寄付をいたしました。

[桜木町駅会場]



活動前には、ボランティア全員で黙とうを行いました



ガールスカウトなど、数多くの団体に当日ご協力頂きました



大船渡の方々に渡すフラッグに、ボランティア全員のメッセージを書きました



全員での集合写真

おおふなと「がんばっぺし」心プロジェクトとは

中区社会福祉協議会・中区ボランティア連絡会が発起人となり、被災地の方々の心の支援として、津波のために離散した町内会の方々の心の絆を取り戻す機会を作るために、大船渡市大船渡町浜町地区と須崎地区の方々を、春休み（平成24年3月29日～31日）に横浜にお招きするプロジェクトです。